

**2012年3月期
第2四半期
決算説明資料
(2011年4月～2011年9月)**

2011年11月17日(木)決算説明会 発表資料

東洋合成工業株式会社

■ 目次

1. 2012年3月期 第2四半期決算概要 P 3～
2. 2012年3月期 通期見通し P11～
3. 今後の展望 P14～

1 . 2012年3月期第2四半期 決算概要

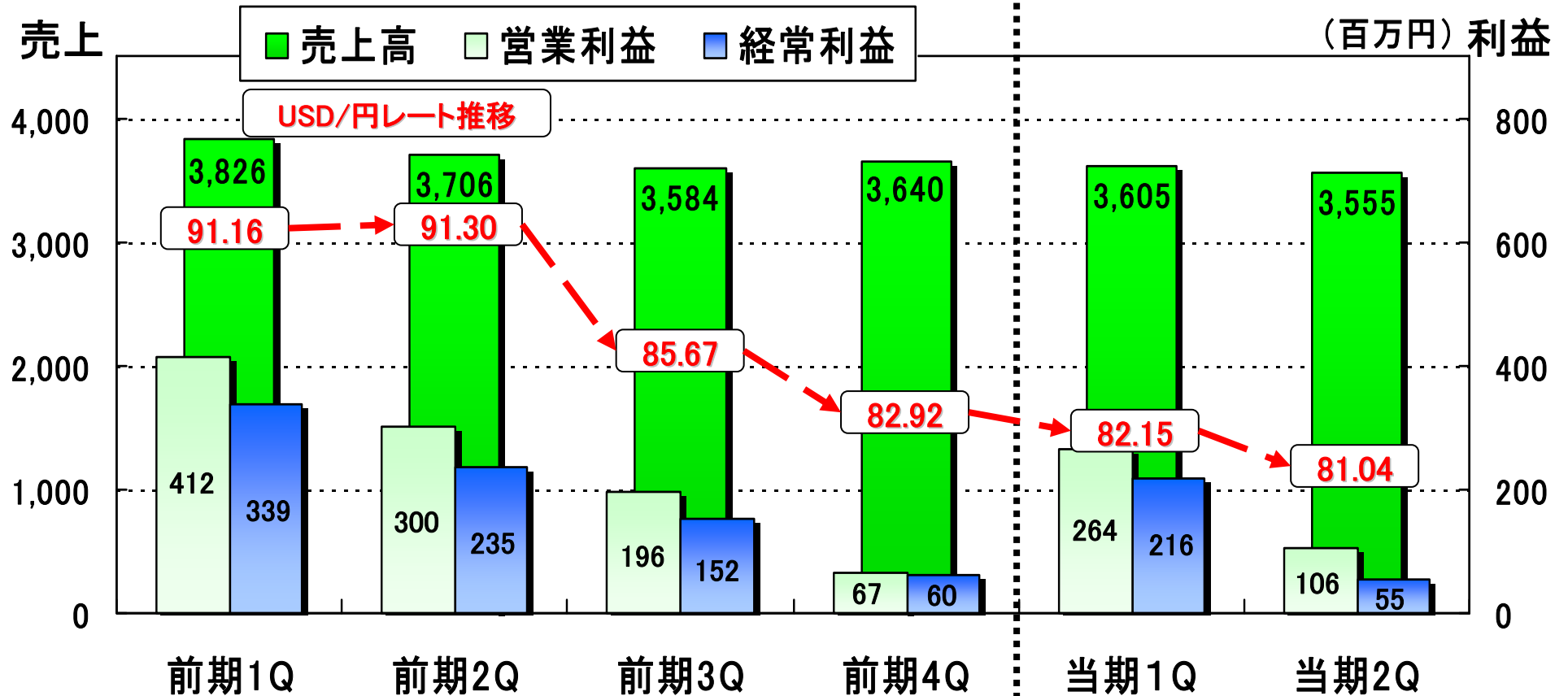
■ 2012年3月期 第2四半期決算(連結)

- **売上高は前期比 Δ 4.9%、予算比 Δ 9.4%**
円高進行に加え、液晶パネル向け感光材が低調に推移し、売上高は減少。
- **経常利益は前期比 Δ 52.8%、予算比 Δ 20.1%**
(前期比)新工場立ち上げにともなう人員増による影響 Δ 138百万円。円高による影響 Δ 207百万円。

科目 (百万円)	前期 実績	当期 実績	前期比 増減率	上期	予想比
				予想数値 ※5/10発表時	増減率
売上高	7,533	7,161	Δ 4.9%	7,900	Δ 9.4%
営業利益	712	371	Δ 47.9%	390	Δ 4.9%
経常利益	575	271	Δ 52.8%	340	Δ 20.1%
当期純利益	517	255	Δ 50.6%	310	Δ 17.7%

■ 全社 売上・営業利益・経常利益 四半期別推移

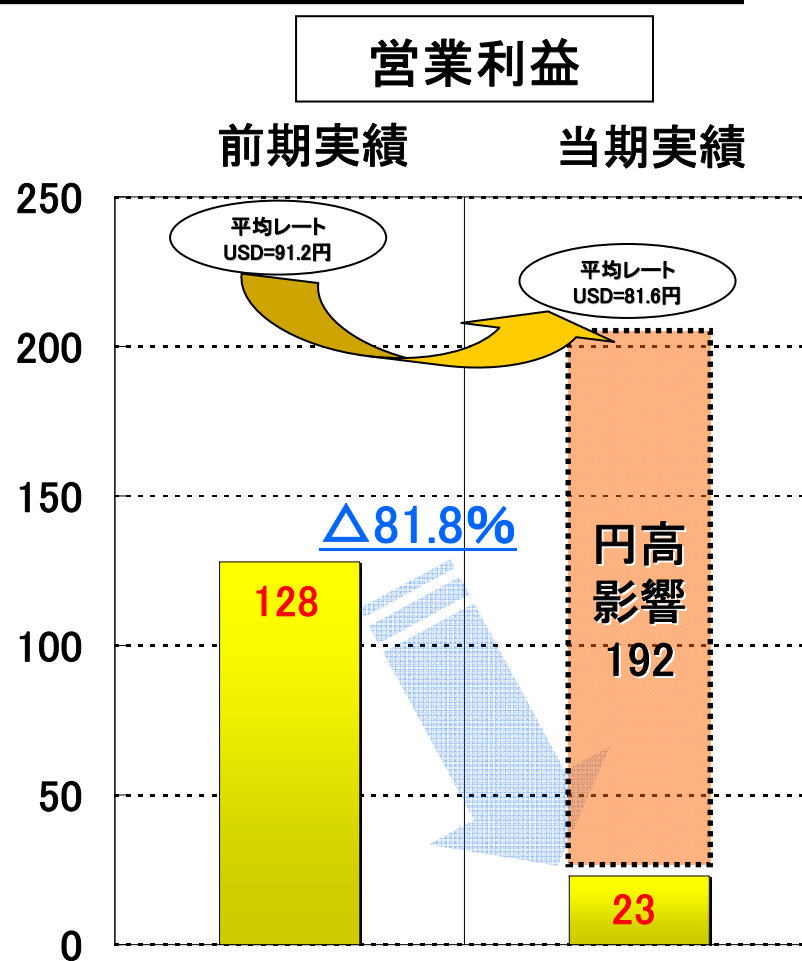
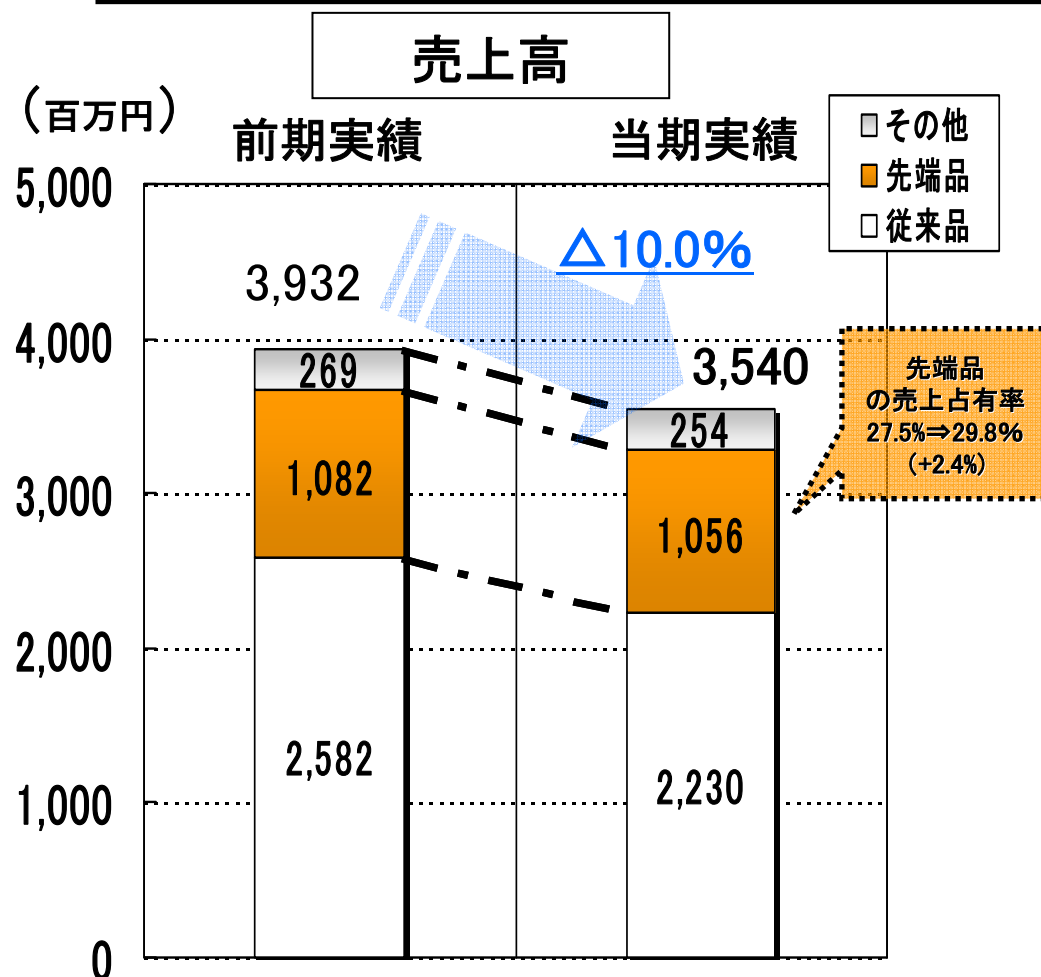
売上・・・震災以降の継続的な円高の影響で、横ばいに推移。
 利益・・・円高の影響により減少傾向。1Qは震災による在庫不足から、フル生産対応。当期2Qは節電対策として定期修繕を集中化したため稼働率は低下。



■ 感光性材料事業 売上高・営業利益

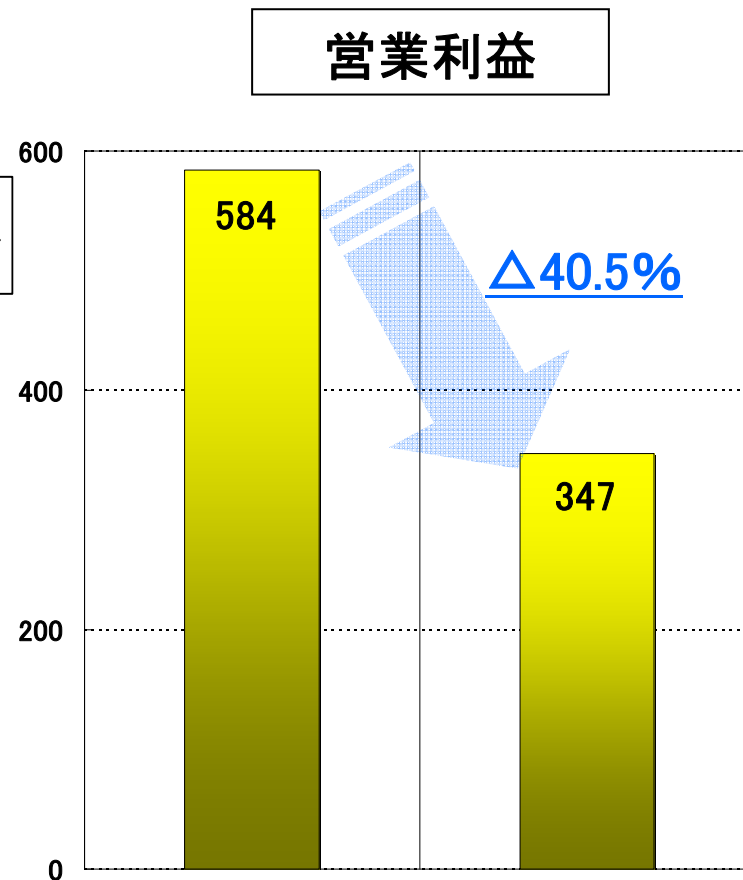
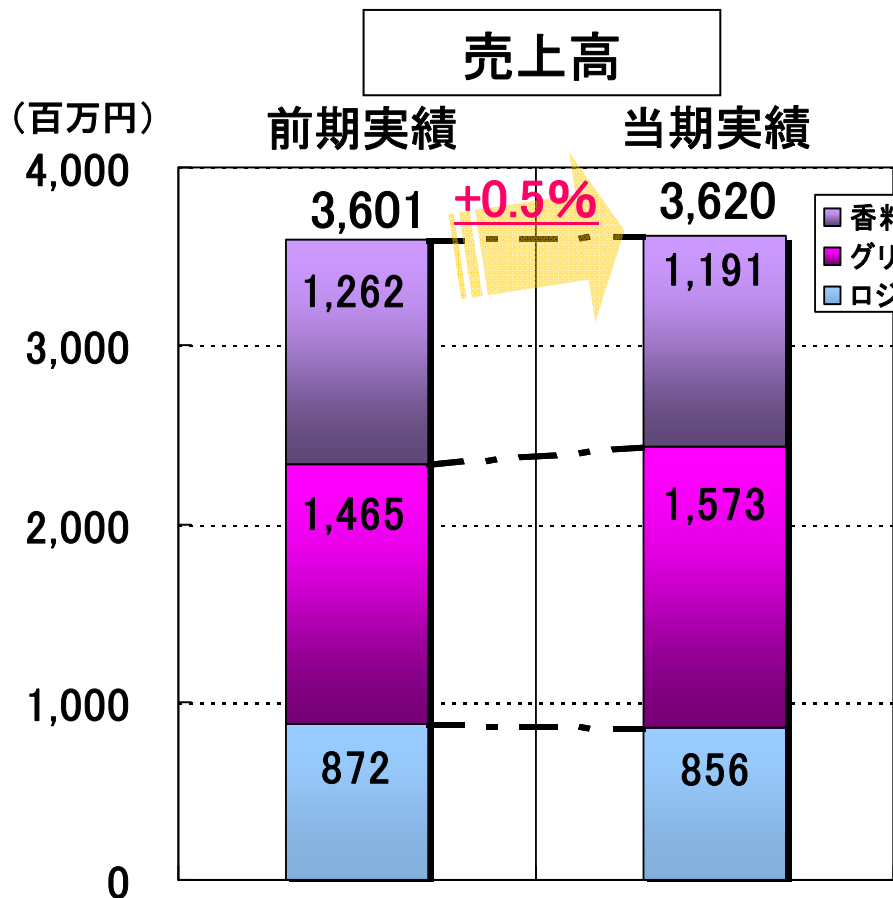
売上高は、前期比 $\Delta 10.0\%$ 。営業利益は、前期比 $\Delta 81.8\%$ 。

- 売上高は、在庫調整の影響を受け、液晶向け感光材が低調に推移。
- 付加価値の高い、最先端品の比率向上を継続。(前期比+2.4%)
- 円高の影響は $\Delta 192$ 百万円の利益減少要因。(前期比9.6円の円高)



■ 化成品事業 売上高・営業利益

・ 売上は、前期比0.5%の増加。営業利益は前期比40.5%の減少。
 - 新工場建設による人件費増加により減益。
 - 定期修繕を今夏に集中させ、生産量が減少したため、上記に加え、減少要因に。



2012年3月期 第2四半期決算 損益計算書

- ①販売管理費 ……本社移転費用及び、新工場要員含め人員増加による人件費負担増加。
 ②営業外収益・費用 ……為替差損の減少。(当期67百万円、前期93百万円)
 ③特別損失 ……前期、有価証券の減損処理および資産除去債務の過年度分損失を計上。

科 目 (百万円)	2011年3月期 第2四半期決算(連結) 実績	2011年3月期 第2四半期決算(連結) 実績	対前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	7,533	7,161	△372	△4.9%
売上原価	5,722	5,547	△175	△3.1%
売上総利益	1,811	1,614	△197	△10.9%
販売管理費	1,098	① { 1,243	+144	+13.1%
営業利益	712	371	△341	△47.9%
営業外収益	31	41	+10	+33.3%
営業外費用	168	② { 141	△27	△16.1%
経常利益	575	271	△303	△52.8%
特別利益	0	0	±0	—
特別損失	38	③ 2	△36	△93.0%
税引前当期純利益	536	268	△267	△49.9%
法人税等・少数株主持分利益	19	13	△5	△30.4%
当期純利益	517	255	△261	△50.6%

■ 2012年3月期 第2四半期決算 連結貸借対照表

【流動資産】 震災時から復旧し、正常時に戻ったため在庫が6億円増加。

【固定資産】 淡路工場土地取得、香料工場タンク部建設により有形固定資産が12億円増加。

【負債】 設備の支払が影響し、借入金が4億円増加。その他設備未払金も8億円増加。

【純資産】 2億円増加したものの、総資産が17億円増加したため、自己資本率は1.1%減少。

科目 (百万円)	2011年 3月期 期末	2012年 3月期 第2四半期	増減	科目 (百万円)	2011年 3月期 期末	2012年 3月期 第2四半期	増減
流動資産	8,023	8,583	+560	負債(流動+固定)	16,199	17,743	+1,543
現金預金	1,076	1,094	+17	買掛債務	1,937	2,286	+348
売上債権	2,530	2,266	△263	有利子負債	11,084	11,522	+438
棚卸資産	4,102	4,770	+668	その他	3,177	3,934	+756
その他	314	452	+137				
固定資産	14,393	15,609	+1,215	純資産	6,217	6,449	+232
有形固定資産	13,407	14,645	+1,237	株主資本	6,228	6,460	+231
無形固定資産	442	421	△20	評価・換算差額	△11	△10	△1
投資・その他	543	542	△1	少数株主持分	0	0	+0
資産合計	22,416	24,192	+1,776	負債・純資産合計	22,416	24,192	+1,776

(参考情報)

自己資本比率(%)	27.7	26.7	△1.1
D/Eレシオ(倍)	1.8	1.8	△0

■ 2012年3月期 第2四半期 連結キャッシュフロー計算書

- ・営業CFは、税前利益の減少が影響し、前期比△315百万円。
- ・淡路土地、自家発電機等の取得により投資CF△1,322百万円。

科 目 (百万円)	2011年3月期 第2四半期(連結)	2012年3月期 第2四半期(連結)	前期比 増減額
営業活動によるCF	1,270	954	△315
税金等調整前純利益	536	268	△267
減価償却費	909	852	△56
売上債権の増減額	△300	263	+564
たな卸資産の増減額	△165	△668	△502
仕入債務の増減額	216	348	+132
その他	74	△111	△185
投資活動によるCF	△239	△1,322	△1,082
フリー・キャッシュフロー	1,030	△367	△1,398
財務活動によるCF	△1,000	389	+1,389
現金及び現金同等物の増減	17	17	△0
現金及び現金同等物の期末残高	847	594	△253

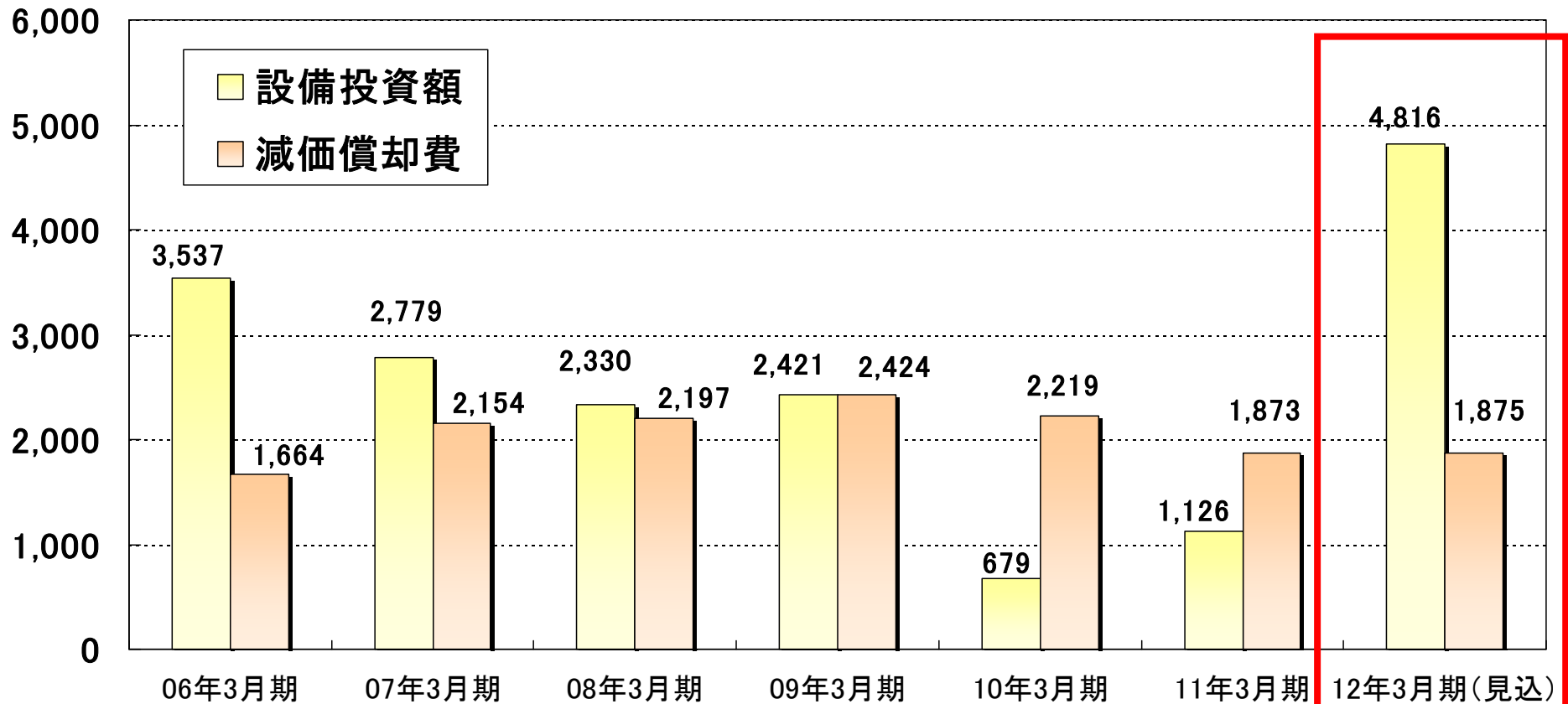
2. 2012年3月期 通期見通し

■設備投資と減価償却費の推移および計画

- ・設備投資は48億円を計画。(主な設備投資:香料工場30億円)
- ・減価償却費は前期並み。(香料工場の生産設備は4月稼働予定)

(百万円)

設備投資額と減価償却額の推移



■ 2012年3月期 業績予想の修正について

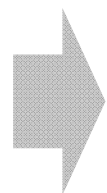
- ・売上は通期150億円へ修正。
- ・円高の影響および香料工場新設に伴う人件費増加により、
経常利益は470百万円を見込む。(前期比△40.4%)
- ・ドル/円の為替レートは78円で計算。

科目 (百万円)	2012年 3月期(連結) 上期実績	2012年 3月期(連結) 下期業績予想	2012年 3月期(連結) 通期業績予想	2011年 3月期(連結) 実績	前期比 増減率
売上高	7,161	7,838	15,000	14,759	+1.6%
営業利益	371	258	630	976	△35.5%
経常利益	271	198	470	789	△40.4%
当期純利益	255	174	430	421	+2.0%

3 . 今後の展望

東日本大震災後(3/11～)のリスク対策への取組み状況

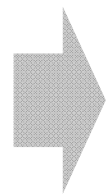
①千葉工場および市川工場へ自家発電機を設置



電力使用制限(7～9月)に伴い自家発電機を稼働させ、△25%の電力使用量削減の達成と運転ノウハウを構築済。

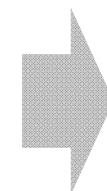


②香料工場・淡路工場の建設による生産拠点の分散化



- ・市川工場へ集中していた化成品事業(香料材料事業・グリーンケミカル事業)の生産拠点を分散化
- ・詳細は、本資料の後半でご説明。

③BCMS(事業継続マネジメントシステム)の構築PJが本格始動



- ・ISO22301が平成24年春に発効予定。
- ・ベースとなるBS25999に基づきBCMSを構築中。

■為替動向

海外売上高比率は上昇中。足元の急激な円高は、営業努力・コスト削減策を上回っており、収益への影響大。

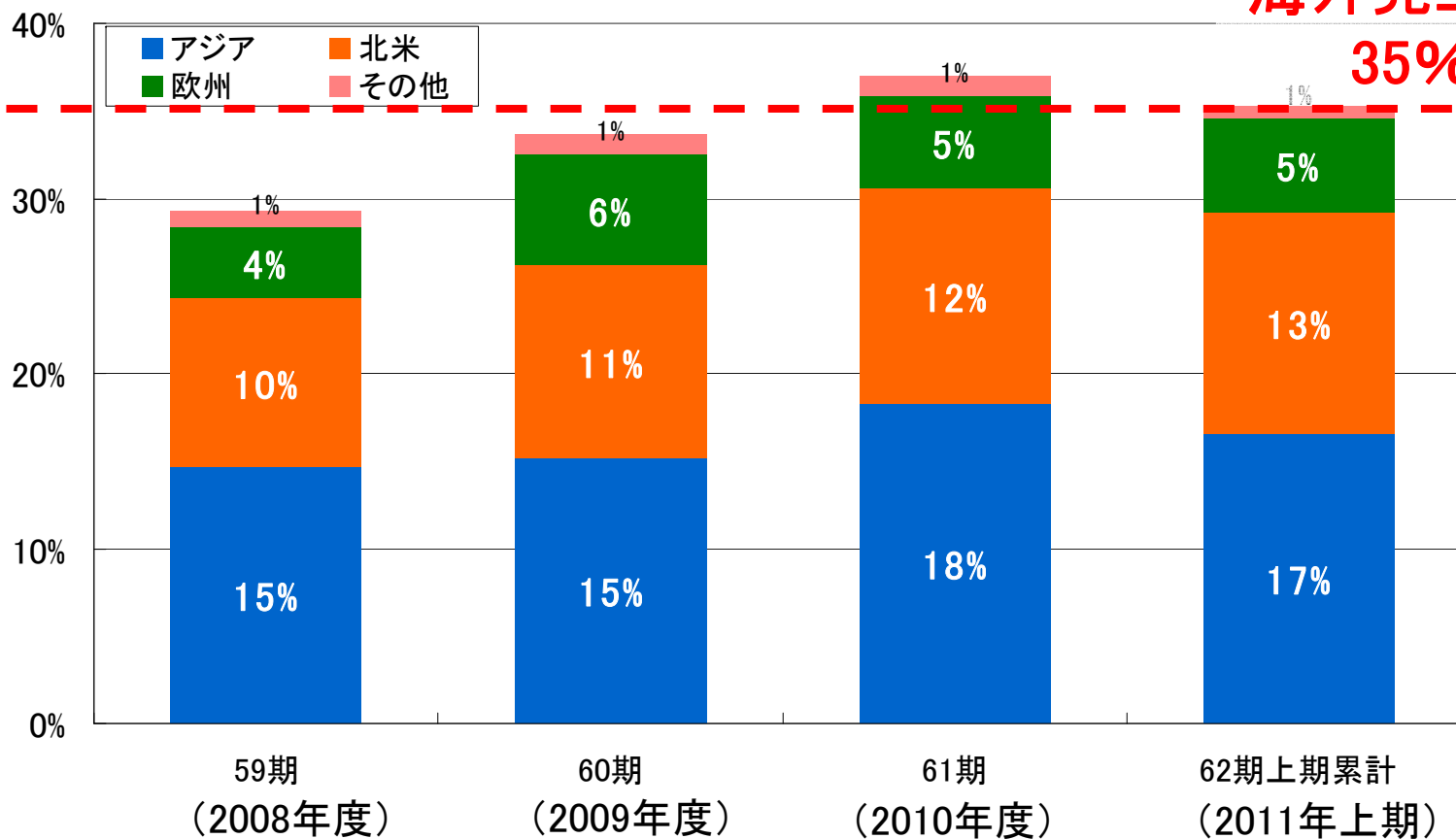
■USドル

1円の変動による利益に対する影響額は、約35~40百万円/年。

■ユーロ

ユーロ建て取引は僅少。直接的リスクは少ない。

海外売上高比率
35%ライン



海外売上高

35億円

42億円

55億円

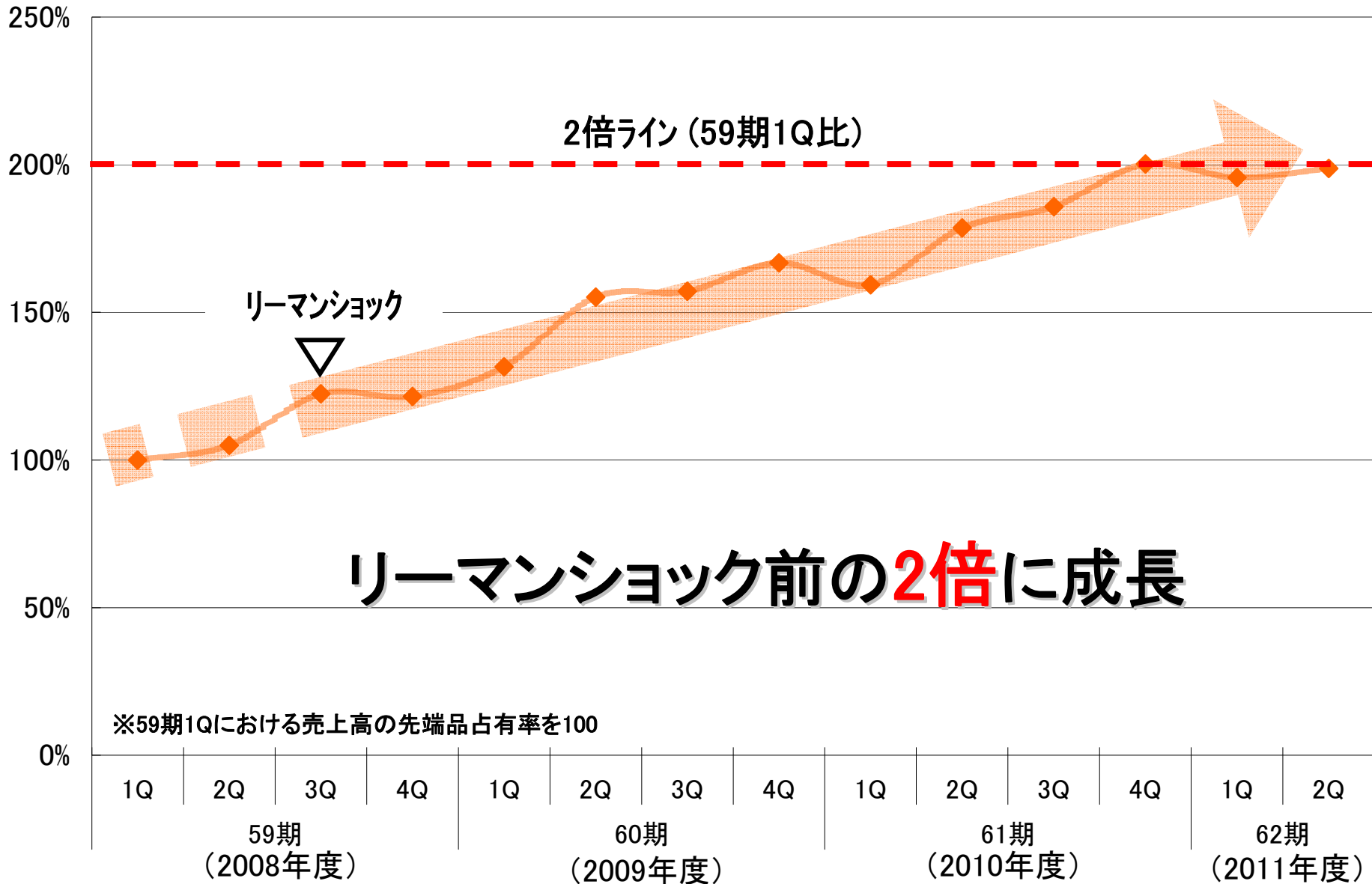
(25億円)

- ・ 液晶・半導体市場とも、リーマンショック後に本回復⇒欧米の経済低迷により先行き不透明感強まる。
- ・ 多機能携帯端末(スマートフォン・タブレット携帯端末)等の普及に伴い、微細化された半導体のニーズは急拡大。レジスト市場は、先端系の化学増幅系(KrF・ArF・ArF液浸等)へシフト。

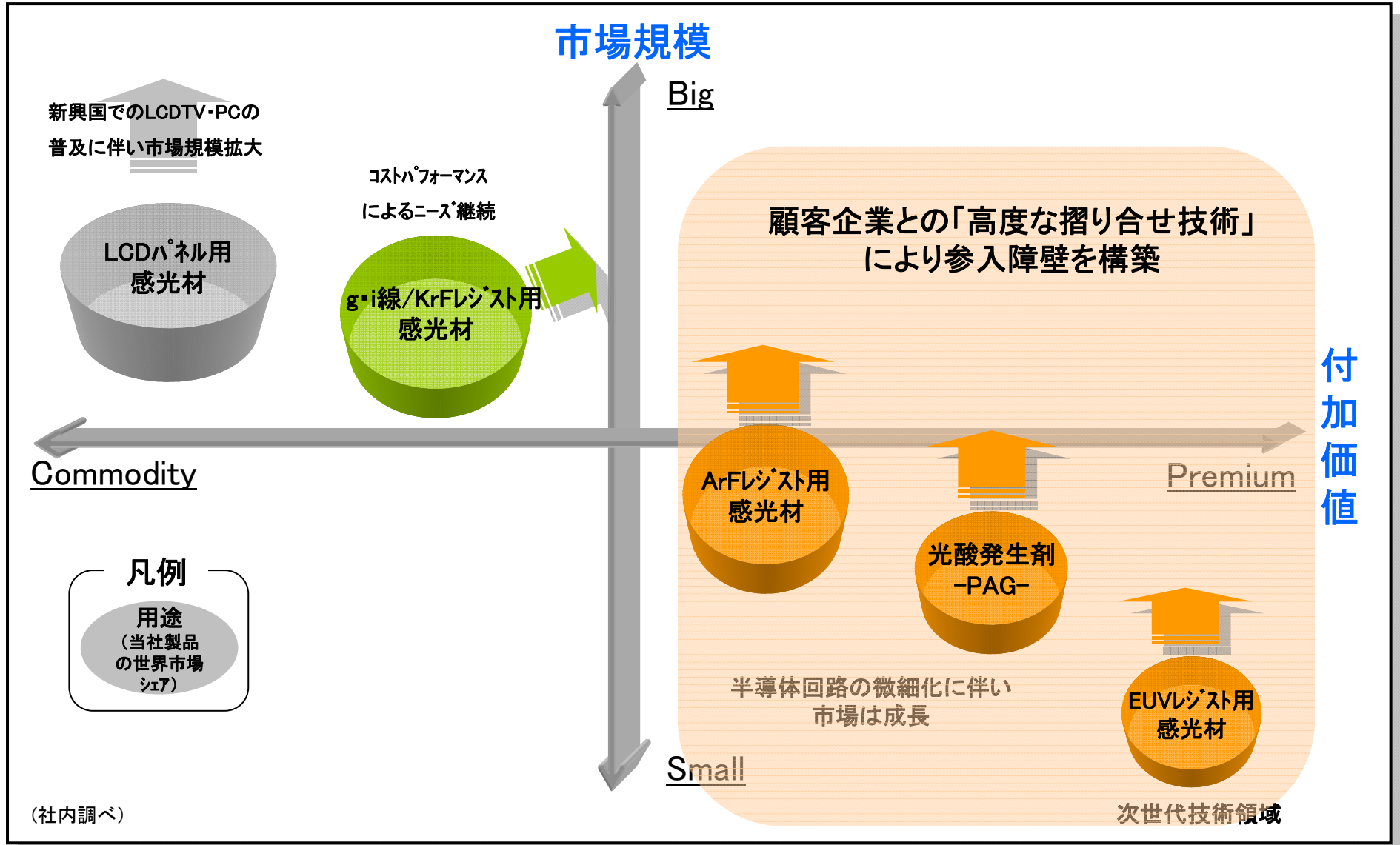
	LCDパネル用		半導体用					
光源	g線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸(DP)	EUV
ノード	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm (~22nm)	~16nm
用途	テレビ用パネル	小型パネル	パワー半導体	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ	4コア GBメモリ TBメモリ	最先端メモリ・ プロセッサ
市場	新興国の需要増 価格下落	LTPS(PDA,カーナビ、 携帯電話)の拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	急拡大	プロトタイプ露光機 販売中 材料開発中

← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

半導体市場の拡大に伴い、当社の先端品は成長継続中



感光材市場における当社ポジションイメージ



電気二重層キャパシタ向け電解液

用途

《現在の用途》

- ・瞬時電圧低下防止装置
- ・エレベーター、建機
- ・風力発電機

《将来に期待される用途》

- ・ハイブリッド(電気)自動車
- ・スマートグリッド関連製品

研究開発

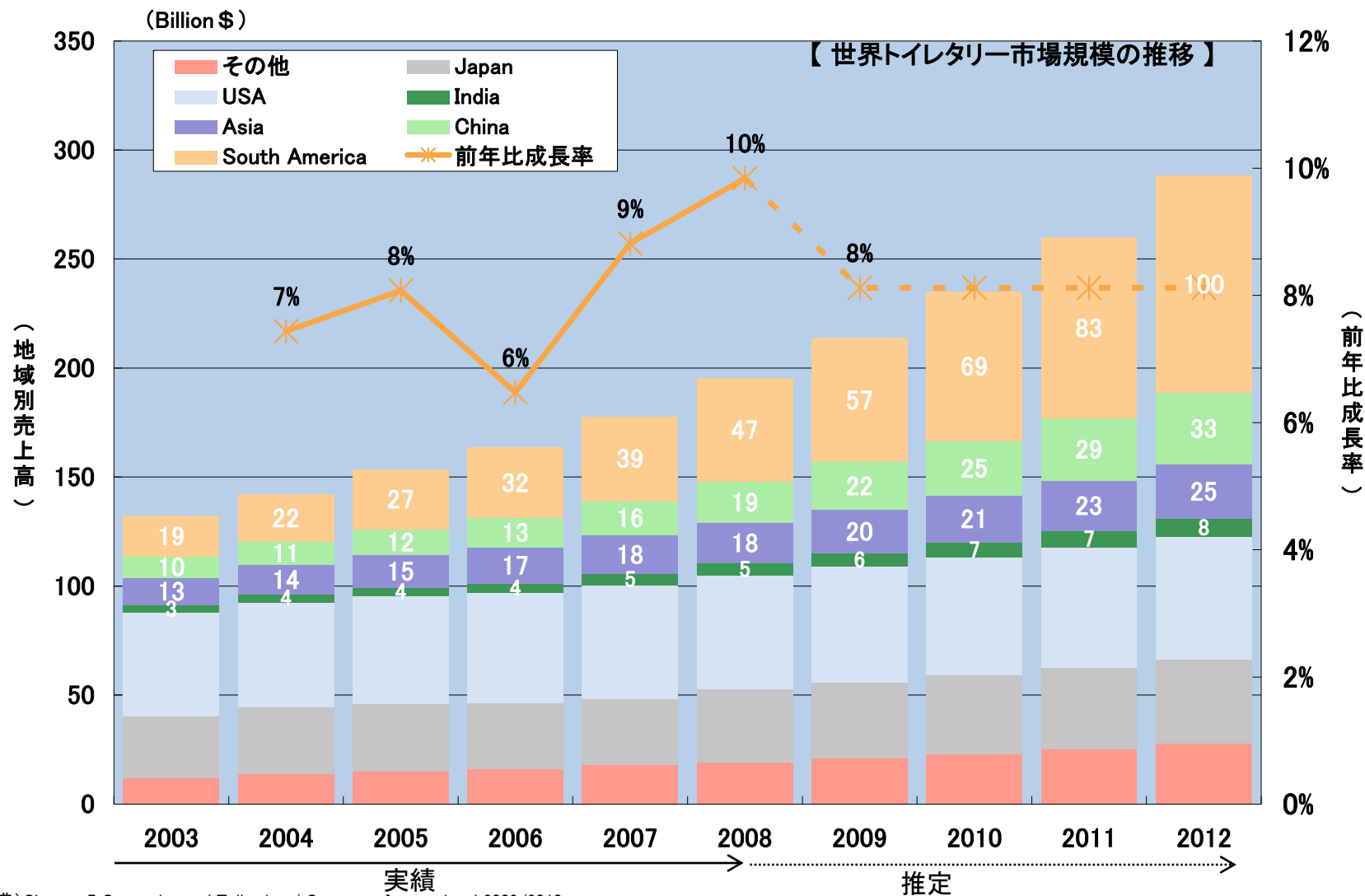
- ・顧客ニーズに応じたきめ細やかな研究開発体制
- ・継続的営業活動により、顧客認証を取得済
- ・量産体制を確保し、商業化フェーズへ移行

市場動向

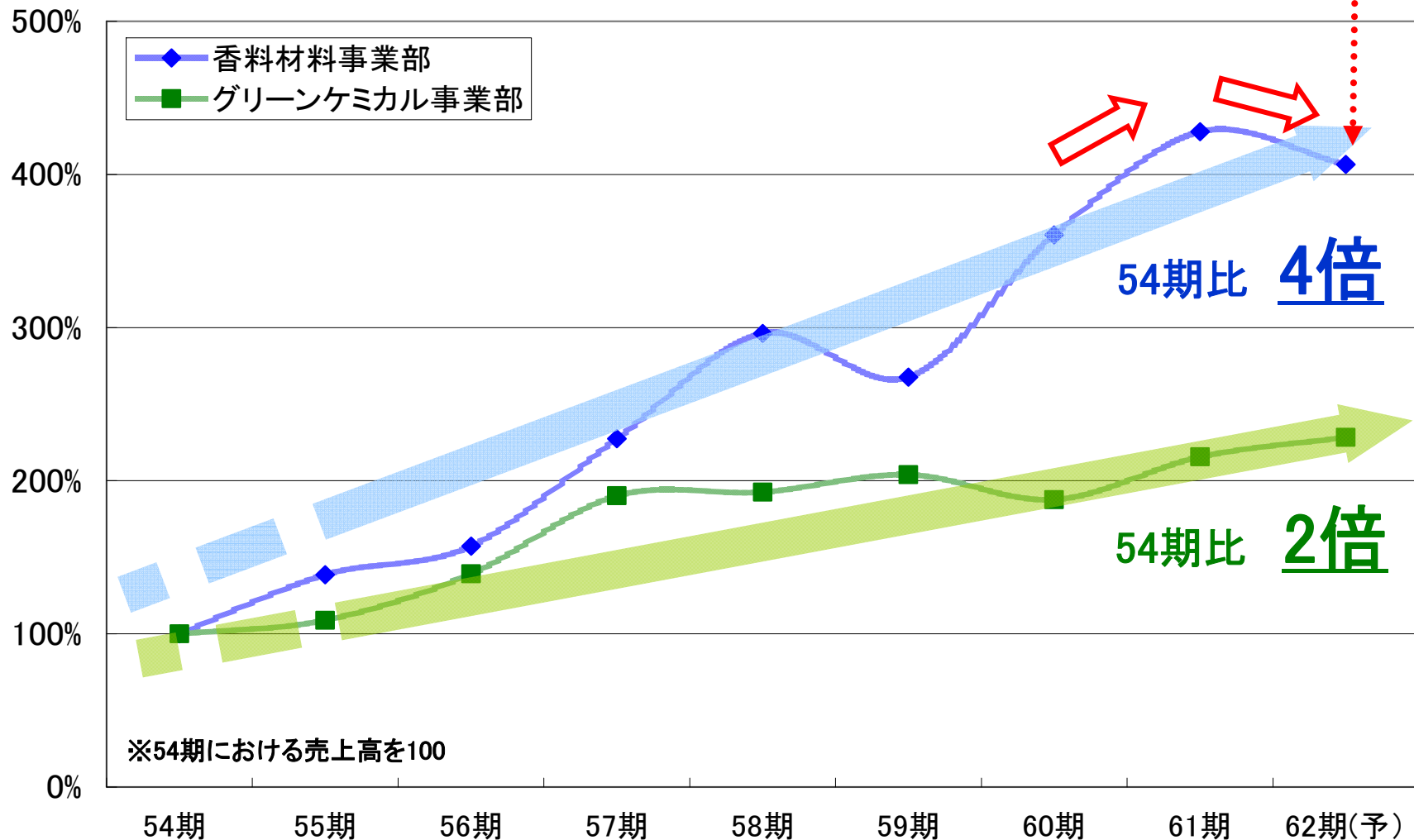
- ・欧米および国内景気低迷による設備投資需要減退からの需要回復待ち
- ・新エネルギーの普及・拡大に伴う需要増加に期待

※イオン液体は、マーケットでの用途開発が徐々に拡大しており、顧客との連携強化を推進中

- ・トイレタリー市場の2003～2008年の年平均成長率は8%。
- ・特に発展途上国市場(南アメリカ・中国・アジア・インド地域)は、経済成長に伴い2桁成長と市場が急拡大しており、トイレタリー製品に使用される香料需要(フレグランス)も増加傾向。



- ・ 香料材料事業 (FF) およびグリーンケミカル事業 (GC) は、各市場とも拡大中。
- ・ 62期の売上高は、54期比で香料材料事業 (FF) は4倍・グリーンケミカル事業 (GC) は2倍へ成長見込み。
- ・ 両事業の製品を生産する市川工場の同売上高は、54期比で約3倍近くまで上昇し、生産能力は限界点に。



香料工場は、千葉工場(千葉県 東庄町)の隣地に建設中



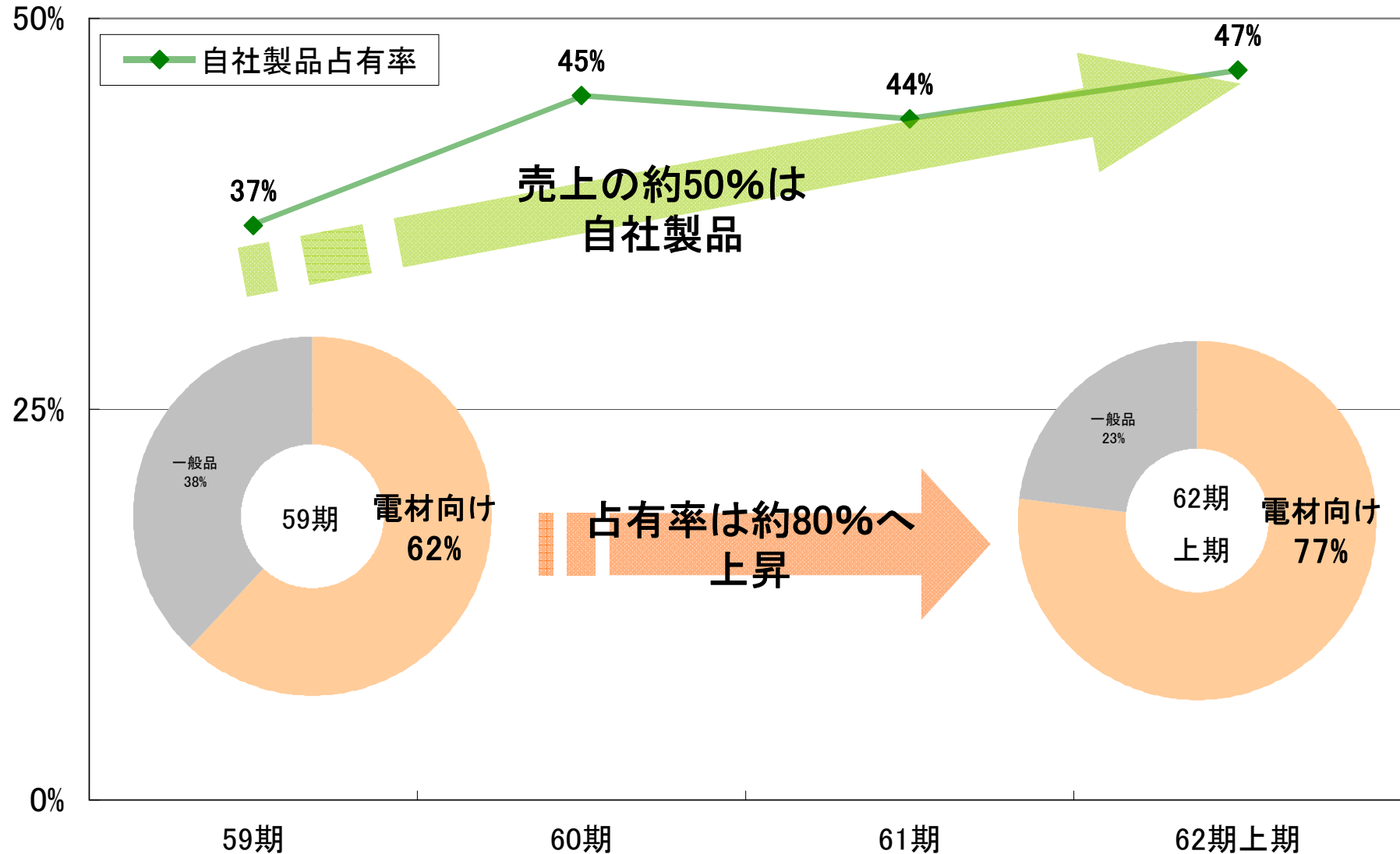
＜取得用地概要＞

- ・取得日:2008年に取得・造成済み
- ・所在地:千葉県香取郡東庄町宮野台
- ・面積:約25,000㎡

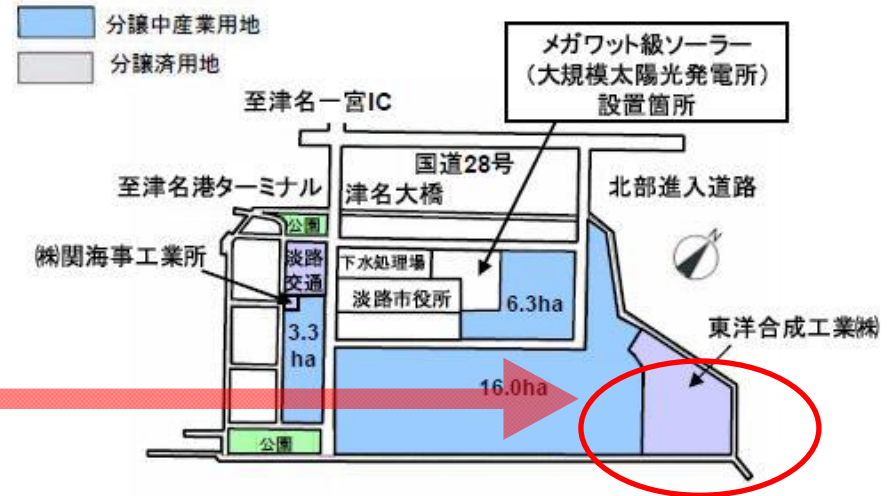
＜建設工事の進捗状況＞

- ・工事進捗・・・12月に生産設備の建設工事を開始予定
(4月より本稼働見込み)

- ・ 当社の蒸留・精製技術は、品質に厳しい電子材料業界を中心に顧客より高い評価を獲得。
- ・ 電子材料用途の対売上高占有率は、今期上期で約80%まで上昇。
- ・ 事業の柱を「リサイクル事業」から「溶剤の製造・販売事業」へ拡大。



兵庫県 淡路市への工場建設計画



<取得用地概要>

- ・取得日: 2011年4月
- ・所在地: 兵庫県淡路市生穂新島(津名生穂地区)
- ・面積: 約50,500㎡

<現在の状況>

- ・関西エリアのマーケティングを展開中。
- ・開発許可取得完了(9/1)⇒造成工事の着工待ち。

<関西地区>

●リチウムイオン電池工場



淡路工場

高い参入障壁と好立地条件

参入障壁

- ・東京湾岸での新規参入は、消防法規制による高いハードルがあり、困難

立地優位性

- ・東京湾岸に立地し、高速出入口にも近接
- ・好立地と抜群の交通アクセス



サービスの差別化

充実した設備

- ・多様な受入形態・保管施設を有し、充実した受払サービスを提供

高付加価値サービス

- ・ファインケミカル事業で培ったノウハウを活かし、品質管理に強み



(株)トランスパレントは「がん細胞培養システム」の共同研究を加速中です。



2011年10月7日
株式会社トランスパレント

世界最大数 144,000 検体のがん患者由来の細胞を保有する米国 [Molecular Response](#) との次世代のがん細胞培養システムの共同研究を加速

日本をはじめとした先進国では、がんが死亡原因のトップになりつつあり、「がん」の克服は大きな社会的課題となっています。がんの病因の多くは、がん細胞内の遺伝子の異常やそれに伴う蛋白の異常などによることが分かっています。それらは患者様ごとに異なるため、患者様ごとに病因を明らかにして治療することがとても重要です。しかしながら、現在、がん細胞内の遺伝子や蛋白の異常が診断できるのはごく限られた場合のみです。患者様のがん細胞を生体内に近い状態で安定して培養することができれば、がんの病因を患者様ごとにより詳細に研究できるだけでなく、患者様に最も適した抗がん薬の選択に利用できる可能性があります。

トランスパレントと世界最大数の患者由来のがん細胞バンクを保有する [Molecular Response](#) は、がん細胞をより生体内に近い状態で培養可能な次世代のがん細胞培養システムの研究開発を加速することになりました。この技術を確認し、バンクのがん細胞を培養して病因を研究することで、より安全で効果的な抗がん薬の研究開発が可能になります。

トランスパレントと [Molecular Response](#) は、本年3月より共同研究を進めてきました。これまでの研究で一定の成果を得ており、このたび、両社の経営資源を徹底投入する事を合意しました。がん細胞マーカーの決定も含め、本年中にも商品化したいと考えています。来年、2012年3月31日～4月4日に開催されるAACR¹の年次総会での発表も予定しています。

【トランスパレントについて】

トランスパレントは、水溶性感光材技術と細胞培養技術を有効活用して、三次元細胞培養システム“Cell-able”の研究・開発・販売をしております。“Cell-able”は、現在、グローバルに、50以上の製薬企業、大学等の研究機関にて、がん領域の研究開発、幹細胞培養、医薬品候補化合物の毒性・代謝等の評価プラットフォームとしてご利用いただいております。より詳細な情報は、こちらをご参照ください。
www.transparent.co.jp

【Molecular Response について】

[Molecular Response LLC](#)は、サンディエゴに本社をおく、世界最大数 144,000 検体のがん患者由来の細胞バンクを保有する創薬支援企業です。より詳細な情報は、こちらをご参照ください。
www.molecularresponse.com

お問合せ先
株式会社トランスパレント
千葉県印西市若萩4-2-1
宇崎 晴基 (うおざき せいき)
TEL: 0478-98-3471
E-mail: uozaki@transparent.co.jp

¹ AACR: 米国癌研究学会 (American Association for Cancer Research) の略称。1907年に米国で設立されたがん研究における世界最大の研究者団体であり、関連情報の発信源として世界中から高い信頼、評価を得ています。

2011/10/7 リリース記事

(本紙はお手元の資料をご覧ください)

証券コード

4970

証券コード

4 9 7 0

よくなれ！！東洋合成

● ● ● ●



東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。